

学長プロジェクト 1
会計学への新展開
-やってみるといふ学び方分科会-
「実践の場から学ぶ会計の大切さ」

基盤教育機構 渡邊 圭

実践の場とは、 ⇒学外問わず、学内行事等で会計を学べる

- ▶ 正課講義や資格取得の学習内容について体験を通して理解をより深めることができる。
- ▶ 財務諸表を分析するだけでなく経営活動を実際に見ることができる。
- ▶ 社会で実務経験を有する専門家から実学の視点から会計の必要性をまなぶことができる。
- ▶ 地域の個人事業を営む経営者が必要とする会計情報の支援

きっかけがないと学生
のみで
学ぶのは困難

学外：会計事務所訪問、 個人事業店への会計業務支援

▶ 会計事務所訪問

⇒卒業生が在籍している会計事務所へ訪問し、実学の視点から会計を学ぶと同時に在學生と卒業生の交流を深める。

インターンシップも毎年実施。



▶ 個人事業店（協力店）への会計業務支援

⇒クラウドサービスを利用した遠隔から

会計業務支援を行い、会計情報（原価管理、損益分岐点等）提供。



学内：文化祭の模擬店を出店 ICT帳簿で記録



▶ 文化祭の模擬店を出店（ICT帳簿で記録）

⇒ICT帳簿を作成し、模擬店に必要な会計情報を考えさせ、帳簿組織の理解を深める。

ICT帳簿を通じて、予算管理、資金調達などの会計関連分野以外にも模擬店の広報、情報処理、材料等の仕入先調査、販売代金の回収方法（電子マネー決済など）の意思決定、経営コンセプトなど、総合的に商業に関する学びを実践から学習できる。

実践の場から学ぶ会計の大切さ ⇒学者、資格試験、実務家、経営者などの様々な視点から会計の大切さを学ぶ

- ▶ 大学の正課講義や資格取得を通じて客観的な成績から会計を学んだ実績を身につける。
- ▶ 実務家、経営者などの様々な視点から社会における会計の役割、コミュニケーション力、経験談などを聞き、学生自身の働き方等、内面的な成長を図る。